



反省した鬼と仲良くなった園児たち

江刈保育園で節分 豆の力で福を呼ぶ

2月2日、江刈保育園で16人の園児が元気いっぱい節分の豆まきを行いました。園児は始めに、豆で鬼を退治し福を呼び込む節分の由来や、鬼が豆を苦手な理由を紙芝居で学び、「鬼にこないでほしい」「怖い」と想像を膨らませました。3匹の鬼が登場すると、逃げ回ったり「鬼は外！」と追い払いますが、中には怖くて泣き出してしまふ子どもも。豆を投げられ弱った鬼たちは、反省したので仲良くしてほしいとお願い。子どもたちは「いいよ！」と笑顔を見せていました。

1点を争う好勝負 ネオホッケー大会

第33回こどもスポーツ交流大会（町スポーツ少年団本部主催）は2月4日、社会体育館で開催され、小学生の男女混合5チームがネオホッケーで競い合いました。チームの実力はほぼ互角で、試合は互いに一歩も譲らず1点を奪い合う好勝負となり、保護者からも熱い声援が飛んでいました。優勝した江刈Aのキャプテン日向佑実さん（江刈小6年）は「みんなで一丸となってパスを繋げることができ、自分もシュートを決められたので良かった」と笑顔を見せていました。



激しくボールを奪い合う選手たち

季節の行事を体験 餅つきなど楽しむ

五日市保育園の園児6人は1月23日、餅つきとみずき団子づくりを行いました。園児たちは、保育士から小正月に五穀豊穡を祈って作られるみずき団子の由来を教わり、米粉で団子づくりに挑戦。赤、黄、緑の色とりどりの団子や飾りを吊るし、ミズキの木を彩りました。その後は臼ときねを使って協力しながら交代で餅をつきました。園児たちは、きねを振る友だちを応援したり、出来たての餅を味わったりしながら、この時期ならではの行事を楽しんでいました。



ミズキの枝に団子を飾る園児

地元自慢の味を堪能 くずまき高原の夕べ

2月16日、JA新しいわたのモウモウ館で、岩手くずまきワインが主催する第34回くずまき高原の夕べが開催されました。同会場で開催されるのは4年ぶりで約130人が来場。代表取締役社長の鈴木重男町長は「これからも地元の皆さんにくずまきワインを誇りに思っただきたい」とあいさつしました。参加者はお気に入りのワインやジュースで乾杯し、特別に提供された非加熱の生詰めワイン「無ろ過」や特産品を使用した料理など、地元自慢の味を心ゆくまで楽しんでいました。



大勢の来場者で賑わう会場



皮をむいたじゃがいもにひもを通す参加者

伝統の保存食を学ぶ 凍みじゃがいも作り

2月1日、くずま〜るの調理室で凍みじゃがいも粉の作り方伝承会（八幡平農業改良普及センター主催）が行われ10人が参加しました。凍みじゃがいもは寒い地域ならではの伝統の保存食。講師の佐々木チヨ子さん（茶屋場）は「凍らせたじゃがいもは水に浸し、丁寧にアクを取ると白くきれいな粉にできる」と説明。参加者はじゃがいもの皮をむいてひもに通す作業を熱心に行っていました。凍みじゃがいもは吊るして寒風にさらして乾燥させ、3月に粉にして「凍みじゃがいももち」を作る予定です。